



2013年9月8日～13日参加

慶應大学 2年 侑彦さん



ツアー全体としては、一日一日に色々な体験が詰まっていて、毎日がとても充実していると感じました。観光の部分のみでなく、現地の学生や子どもたちとの触れ合いも本当に楽しく、彼らの笑顔にたくさん元気をもらいました。しかし、観光や触れ合いの楽しい部分だけでなく、カンボジアの厳しい現実にも直面し、自分の今までの認識を改めさせられました。特に、義足リハビリセンターの訪問は、自分にとって忘れられないものになる

と思います。私たちがセンターを訪れた瞬間から、手足を失った現地の方々の視線を感じ、当たり前ですが私たちの訪問が彼らにとってあまり好ましいものではないのだと思いました。どんな人であっても、自分の姿をじろじろ見られたり、地雷被害にあった時のことを根掘り葉掘り聞かれるのは気分のいいことではないはずです。相手にとって嫌なことをさせていただいたのに、技術も経験もない僕には、感謝の言葉を伝えることや小額の寄付をするぐらいしか彼らにお返しができせん。このように、今回のツアーでは、自分は何もできないただの人間なのだということを改めて実感しました。だからこそ、学生のあいだに資格を取ったり、現地での実務経験を積むことによって、将来、苦しんでいる人々のために少しでも何かできるようになりたいと思います。ですが、自分には何もできないと言うことが分かっただけでも大きな収穫だと思いますし、一二三先生が、日本語が喋れるだけでも人の役に立つことができると仰ったように、自分が当たり前のようにできることが誰かのためになることもあると分かったので、これからも諦めずにまずは自分にできることから始めようと思います。



このような貴重な体験をさせていただいてありがとうございました。